



大学入試改革は高校生の学習行動を変えるか : 首都圏10校パネル調査による実証分析

山村, 滋

(Citation)

高校生・若者パネル調査からの示唆

(Issue Date)

2019-12-01

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90006602>



大学入試改革は 高校生の学習行動を変えるか

—首都圏10校パネル調査による実証分析—

山村滋(大学入試センター)

1

報告の構成

はじめに

- I. 大学入試は学習誘因となるか—学習時間の変化とその背景—
 - II. 定期考査の位置づけ—進学中堅校の悩ましさ—
 - III. 入試方法志向の変化とそのメカニズム
 - IV. 高校生の学習行動の構造と大学入試改革
 - V. 進学中堅校生徒の学習行動の特長と大学教育への示唆
- おわりに

別紙 変数の作成方法
パネルデータ分析の結果

2

はじめに

3

研究の背景

グローバル化 学習離れ

高大
接続
改革

果たして高大接続改革・大学入試改革によって高校生の学びを変えることが本当に可能なのか？

現代の高校生にとって、入試制度・テストの影響力・位置づけは？

制度改革論議で、この点の理解が不十分

2012年度～2014年度
高校生学習行動パネル調査(第1次)

対象:首都圏の公立進学校・進学中堅校10校
高校生の「実像」把握

入試改革の議論に、実証的なデータをもとに資する

4

改革論議の路線にみる3つの疑問

①引用されている調査データとその使い方

②「高校生たちの学びの拡充」につながる改革とは？ : 大学入試を変えれば学習意欲が高まるとは必ずしもいえない

③大学入試に課す役割の転換

改革論議の基本路線のロジック

先行き不透明な時代に必要な能力を育むため、質を伴った大学生の学修時間確保が必要である。

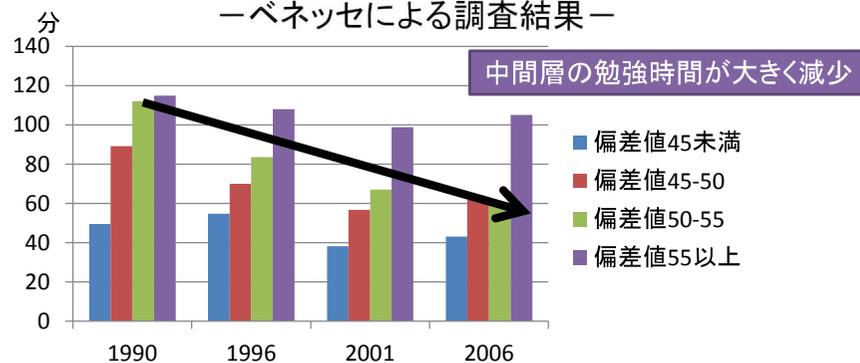
しかし現状は、質も量も十分とはいえず、加えて高校生の勉強時間にも大きな課題がある。

高校・大学・入試の連携を意識した改革が必要であり、この特別部会はその議論を行うために設置された。

中教審高大接続特別部会第1回会議議事録より、田中高等教育政策室長(当時)の説明の要約(2012.9.28)

①引用されている調査データとその使い方

高校生の学習をめぐる政策論議での理解
—ベネッセによる調査結果—



高校2年生を対象に全国4地域で実施。

出所 ベネッセ教育研究開発センター(2007)『第4回学習基本調査報告書』ベネッセ教育研究開発センターを資料にして作成。

問題点

1時点の情報のみ
背景の分析がない

②「高校生たちの学びの拡充」につながる改革とは？

中教審高大接続特別部会では、高校生の学習時間、意欲についての議論があまりにも浅い

例 (高校進学率が98%という現状で)入試でモチベーションの上がる子たちが何%いるのかということです。…。もちろんトップ校を目指す子たちは、塾から帰ってきてから真夜中まで、5時間でも6時間でも勉強しているという現状もあるでしょうが、そういうごく一部の受験によって学習のモチベーションを上げていくという子たちが一体何%いるのでしょうか。(中教審高大接続特別部会第6回議事録より、生重幸恵委員の発言)

安西部会長の応答

高等学校、学力の多様化、とにかく高等学校の裏の背景ももちろんおっしゃるとおりで、それを共通認識にした上で、大学の入学者選抜をどのようにしていけば、具体的に解決のめどがついていくのかということこそ是非議論していただければと思いますので、よろしく申し上げます(中教審高大接続特別部会 第6回議事録より、安西祐一郎部会長の発言。下線は山村)

学習時間の減少の背景にまで立ち入って議論することなく、大学入学者選抜の制度・方法へと焦点化させている

大学進学を考えるいまの高校生たちは、どのような要因に影響を受けながら学習への意欲を高め、あるいは学習から遠のくようになるのか。その把握を欠いたまま施策を講じて、期待できる効果は薄いと考えられる

③大学入試に課す役割の転換

大学入試改革に課す役割にどれほど自覚的か

大学入試をめぐる従来の議論

「テストの存在が『あるべき教育活動』を歪める」(倉元 2017)

➡ 大学入試改革は「その影響力をできる限り小さくしよう」

象徴的事例

1979「共通第1次学力試験＋各大学個別試験(2次試験)」

国大協と大学入試センターによる説明

「高校での教育課程を大学入試が乱さないよう」(乾・新田 1983: 314)

「テストの持つ負の波及効果」(倉元 2017: 73)への配慮は、共通第1次学力試験が大学入試センター試験に変わっても続いている

9

③大学入試に課す役割の転換

高大接続答申の特徴と前提

...改革のための現実的問題として大きく立ちふさがるのが、大学入学者選抜の在り方である。...中略...。接続段階での評価の在り方が変われば、それを梃子の一つとして、高等学校教育及び大学教育の在り方も大きく転換すると考えられる。

中央教育審議会(2014)『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について—すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために—(答申)』、10頁。

高校教育改革・大学教育改革 ➡ 大学入試改革

ではなく

大学入試改革 ➡ 高校教育改革・大学教育改革

前提：大学入試改革をとおして
高校生の学習は変えうる

10

高校生の学習行動把握(←先行研究がない)の不可欠性

大学進学を考えるいまの高校生たちは、どのような要因に影響を受けながら学習への意欲を高め、あるいは学習から遠のくようになるのか。その把握を欠いたまま施策を講じて、期待できる効果は薄いと考えられる。

学習行動分析の枠組み

学習行動の指標

学習時間

学習意欲

成績

これらが、以下の軸のなかでいかに形成されていくか

時間軸：入学から卒業に至る3年間

空間軸：学習の場、部活動への参加、塾・予備校の存在

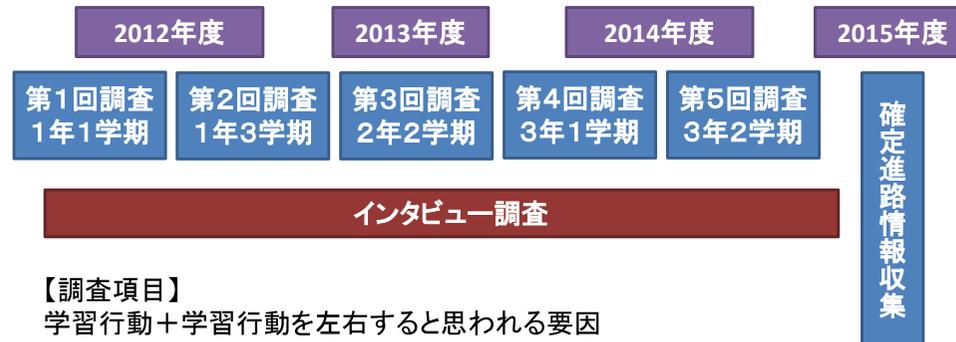
意識軸：進学観(身の丈大学志向)、進路についてのイメージ

人間関係軸：友人、学校・教員の働きかけ(定期考査)

制度軸：大学入試のありよう

11

高校生学習行動パネル調査の概要



【調査項目】

学習行動＋学習行動を左右すると思われる要因

【調査対象】

学習時間の減少が指摘され、推薦やAO入試で大学に進学する者も多い進学中堅校の生徒。首都圏(埼玉県・千葉県)の公立高校6校。

ただし、第2回以降、比較のため、当該地域の有力な公立進学校4校にも実施。

【サンプル数】 進学中堅校：2000強 進学校：1300台半ば

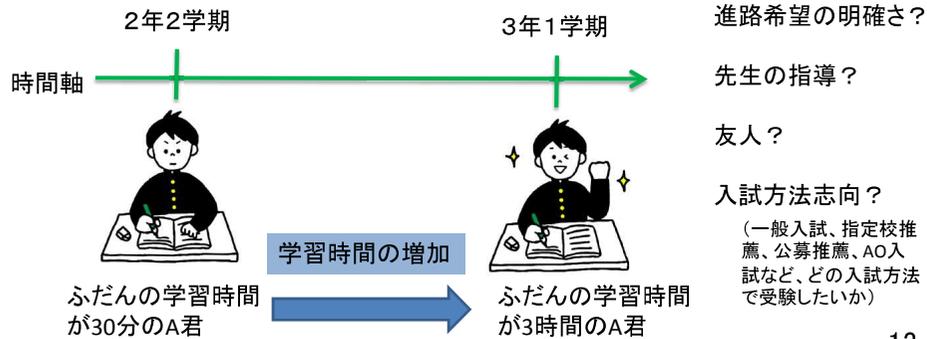
12

パネル調査とは

「パネル調査」とは、同じ調査対象に対してある期間において同じ質問を繰り返し行う縦断的な調査方法

個体間で違いが見られる変数も、時間の経過にもなって変化する変数も同時に扱うことが可能。独立変数の変化が従属変数の変化を促すかを検討できる

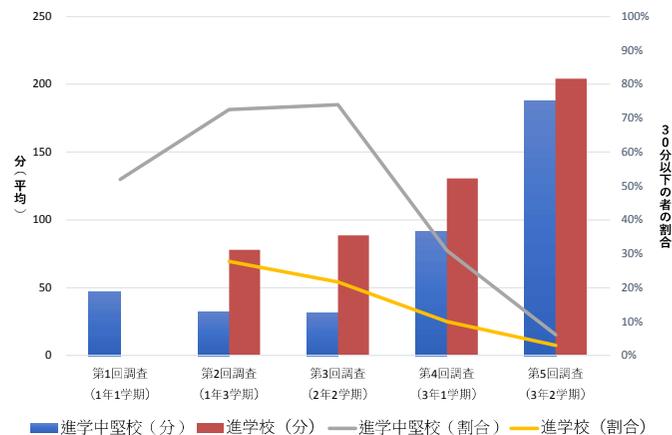
比較によって要因を検討



I. 大学入試は学習誘因となるか —学習時間の変化とその背景—

学習時間の変化

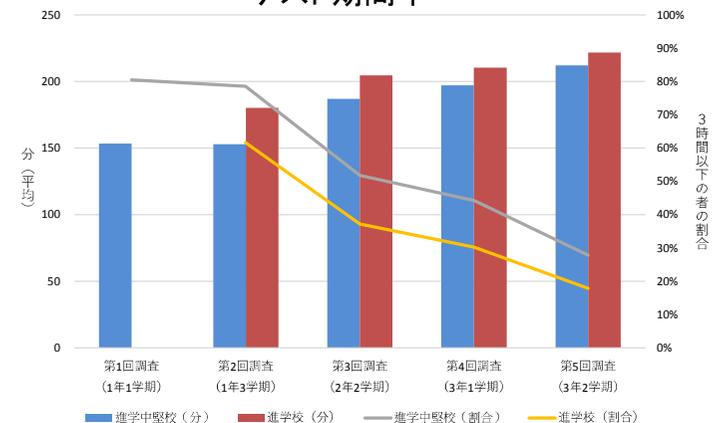
ふだん (平日)



学習時間の平均値: 進学中堅校 < 進学校
30分以下の割合: 進学中堅校 > 進学校

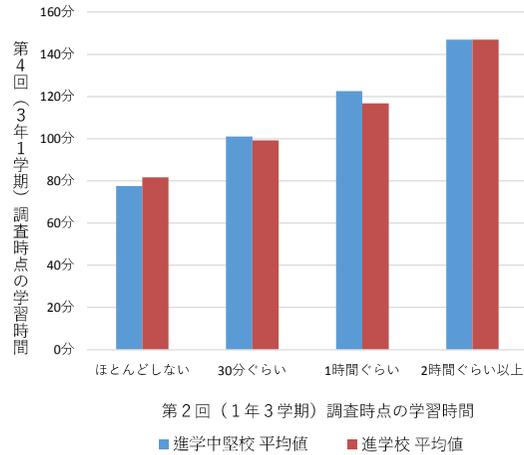
学習時間の変化

テスト期間中



学習時間の平均値: 進学中堅校 < 進学校
3時間以下の割合: 進学中堅校 > 進学校

第2回(1年3学期)調査時点×第4回(3年1学期)調査時点の学習時間



1年次の学習時間が長い生徒ほど3年次の学習時間が長い傾向

学習時間をめぐる動的メカニズムは？



パネルデータ分析

分析対象: 1年3学期-2年2学期
2年2学期-3年1学期
3年1学期-3年2学期

ポイント

何が学習時間の増減に影響するのか？
大学入試方法志向の影響は？

学習時間増減の規定要因(ふだん平日)

採択モデル	進学中堅校			進学校		
	1年3学期-2年1学期	2年2学期-3年1学期	3年1学期-3年2学期	1年3学期-2年1学期	2年2学期-3年1学期	3年1学期-3年2学期
第2回(1年3学期)調査時点の学習時間	+	+	+	+	+	+
通塾日数(週当たり)	+	+	+	+	+	+
女子ダメー	+	+	+	+	+	+
部活動日数(週当たり)	-	-	-	-	-	-
進学したい学校(明確度)	+	+	+	+	+	+
進学したい分野(明確度)				+	+	+
就きたい仕事(明確度)						
勉強に熱心な学内友人	+	+	+	+	+	+
勉強に熱心な学外友人	+	+	+	+	+	+
学習の「場」(ふだん)	+	+	+	+	+	+
先生の指導(勉強時間を多く)						+
身の丈大学志向(第2回(1年3学期)調査)	-	-	-	-	-	-
指定校推薦志向				+	+	+
公募推薦志向						
AO入試志向	-	-	-			
一般入試志向		+	+			
2年2学期ダメー(基準:1年3学期)	-	-	-	-	-	-
3年1学期ダメー(基準:2年2学期)		+	+	+	+	+
3年2学期ダメー(基準:3年1学期)			+			+

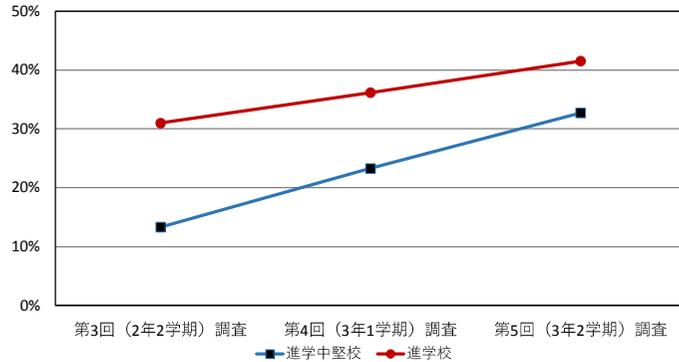
注 網掛けは、はじめから投入されていない変数、もしくは計算の過程で除外された変数

学習時間増減の規定要因(テスト期間中)

採択モデル	進学中堅校			進学校		
	1年3学期-2年1学期	2年2学期-3年1学期	3年1学期-3年2学期	1年3学期-2年1学期	2年2学期-3年1学期	3年1学期-3年2学期
第2回(1年3学期)調査時点の学習時間	+	+	+	+	+	+
通塾日数(週当たり)	+	+	+	+	+	+
女子ダメー	+	+	+	+	+	+
部活動日数(週当たり)	+	+	+	+	+	+
進学したい学校(明確度)				+	+	+
進学したい分野(明確度)						+
就きたい仕事(明確度)	+	+	+	+	+	+
勉強に熱心な学内友人				+	+	+
勉強に熱心な学外友人						
学習の「場」(テスト期間中)	+	+	+	+	+	+
先生の指導(勉強時間を多く)				+	+	+
身の丈大学志向(第2回(1年3学期)調査)	-	-	-	-	-	-
指定校推薦志向	+	+	+	+	+	+
公募推薦志向						
AO入試志向				+	+	+
一般入試志向		+	+			
2年2学期ダメー(基準:1年3学期)	+	+	+	+	+	+
3年1学期ダメー(基準:2年2学期)		+	+	+	+	+
3年2学期ダメー(基準:3年1学期)			+			+

注 網掛けは、はじめから投入されていない変数、もしくは計算の過程で除外された変数

学習の「場」がある生徒の割合



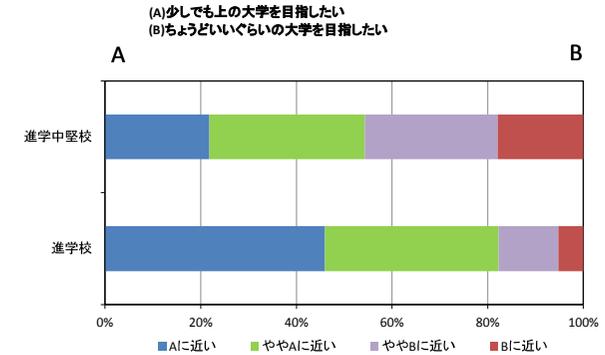
割合は時間とともに増加
進学校: 3年2学期=4割以上



進学中堅校: 3年2学期=3人に1人
進学校の2年2学期と同レベル

場があってもふだんの学習時間
30分ぐらい以下(3年1学期)=8人に1人

身の丈大学志向



「身の丈大学志向」が学習時間の増加を妨げる方向へ作用することは、自らに限界を設定し、将来の可能性を閉ざしてしまうことを示唆しているように思える。

「場」の形成と大学入試

進学中堅校で「場」をもつ生徒との割合が小さい

理由として考えられる入試の影響

= 多様化した大学入試

①教科数

進学校生徒: 多くが5教科受験

進学中堅校生徒: いずれの教科も

相対的に割合が低い

②多様な入試方法(指定校、公募、AOなど)

3年1学期 16.5% 6.1% 6.7% 合計約3割

受験時期がバラバラ

センター試験受験予定者の教科別の割合

	進学中堅校	進学校
国語	81.4	98.8
地理歴史	48.9	79.2
公民	14.9	33.1
数学	36.5	92.1
理科	35.3	88.7
外国語	95.7	99.1

学習時間増減の要因

(パネルデータ分析+その他の分析)

大学入試の影響力(進学中堅校)

高校前半期: 大きな影響力を及ぼしていない

高校後半期: 一般入試がやっと影響力をもつ

指定校推薦(←定期考査)

むしろ、

プラスの影響: 友人からの刺激

友人と共に学ぶ「場」

学校・教員の働きかけ(「場」の提供、生徒への働きかけ、など)

進路についてのイメージの明確さ

学校外の友人

マイナスの影響: 部活動(←ふだんの学習時間)

進学観(身の丈大学志向)

* 塾・予備校: 学習時間にはプラスだが、

学校での学習と大学入試を別のものと位置づけるように

進学中堅校に焦点を当てれば、 大学入試の影響力は「限定的」

このことは入試改革にとって重要な意味を持つ。
なぜならば、学習時間の減少が問題とされる学力中間層を入試改革を通して学びに向かわせるという政策意図は、彼／彼女らが大学入試を意識して行動しない限り、実現が難しいと考えられるからである。

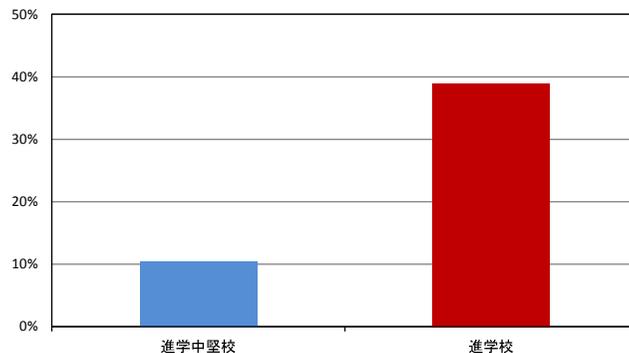
25

Ⅱ. 定期考査の位置づけ ー進学中堅校の悩ましさー

26

定期考査の難しさ

定期考査は難しい＝よくあてはまる



第4回(3年1学期)調査データ

進学中堅校生徒:「教科書を3回読めば8割はとれる」
進学校教員:「定期考査は、生徒と教員の真剣勝負」

27

成績と学習時間をめぐる動的メカニズムは？



パネルデータ分析

分析対象: 1年3学期ー2年2学期ー3年1学期ー3年2学期

ポイント

進学中堅校と進学校では、ふだんの学習時間、およびテスト期間中の学習時間はどう影響するのか？
大学入試方法志向の影響は？

28

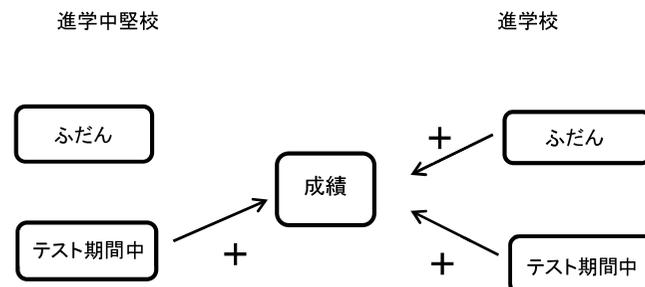
成績の変化の規定要因(第2回(1年3学期)ー第5回(3年2学期) 調査時点, 学校タイプ別)

採択モデル	進学中堅校	進学校
	第2回-第5回	第2回-第5回
	1年3学期-3年2学期	1年3学期-3年2学期
固定効果モデル	固定効果モデル	固定効果モデル
ふだんの学習時間	-0.001	0.046 *
テスト期間中の学習時間	0.085 ***	0.082 ***
通塾日数(週当たり)	-0.003	0.012
女子ダミー	-	-
6教科の学習意欲	0.192 ***	0.208 **
身の丈大学志向(第2回(1年3学期)調査)	-	-
指定校推薦志向	0.031	0.031
公募推薦志向	0.028	-0.031
AO入試志向	-0.005	0.014
一般入試志向	-0.032	-0.014
2年2学期ダミー	-0.047	0.164 ***
3年1学期ダミー	0.007	0.081 *
3年2学期ダミー	0.007	0.057
定数	2.106 **	1.768 ***

入試方法志向は有意ではない

29

学習時間の成績への影響力



進学中堅校: ふだん勉強しなくても、成績が下がるとはいえない

30

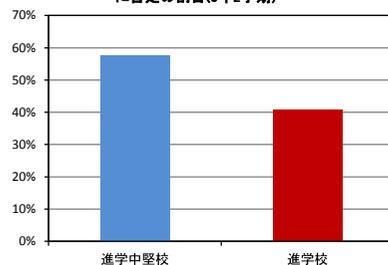
定期考査の位置づけ

パネルデータ分析: 入試方法志向は有意ではない

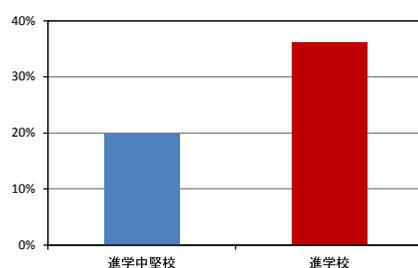


進学中堅校生は定期考査を一般入試との関わりでどう位置づけているのか?

一般入試志向者の「一般入試で大学に合格するための近道は、学校の成績をあげるのだと思う」に否定の割合(3年2学期)



「定期考査にむけて頑張ることの積み重ねが、受験対策に結びつくと思う」=よくあてはまる(3年1学期)



進学中堅校の生徒は、一般入試の受験と定期考査をあまり結びつけて考えていない。

31

定期考査「軽さ」の理由

①受験に必要な教科・科目

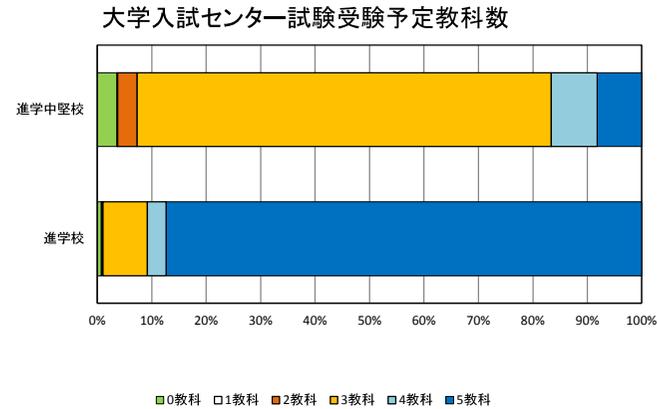
問「あなたにとって『学校の勉強』と『受験のための勉強』は『同じもの』ですか、『別のもの』ですか」

	進学中堅校	進学校
同じ	25.7%	49.0%
別	52.8%	35.8%

(「そのようなことを考えたこともなかった」があるので上の合計は100%とならない)

32

「定期考査の教科」科目構成と「大学受験の教科・科目構成」との距離



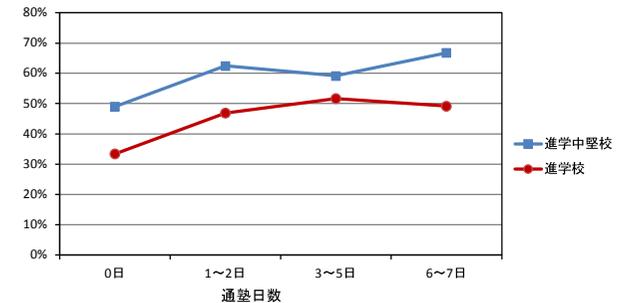
進学校:5教科=87.4% ↔ 進学中学校:5教科=8.2%

33

定期考査「軽さ」の理由

②塾・予備校の影響

「一般入試合格の近道=学校成績をあげる」否定回答比率
(通塾日数別 第5回(3年2学期)調査データ)



* 通塾日数が増えるほど、学校における学習と大学合格(一般入試)を別のものとして位置づけるようになる

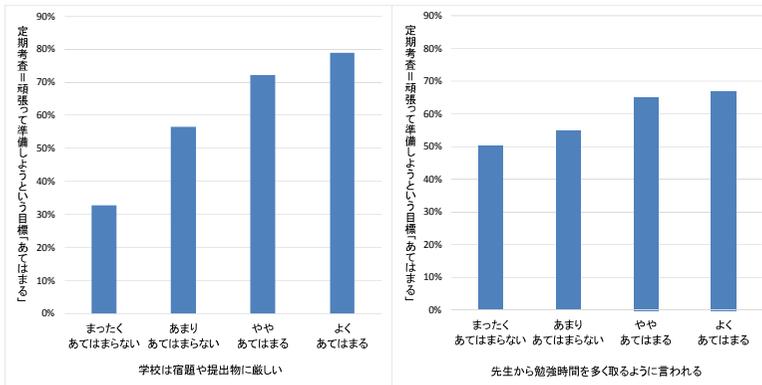
* 進学中学校生徒ほどその傾向が強い

大学受験に必要な教科・科目数の問題と塾・予備校からの影響など、さまざまな要因が絡み合うなかで、進学中学校生徒にとっての定期考査は、十分な影響力を持ち合わせていない

34

進学中学校の悩ましさ

学校からの働きかけの効果(進学中学校生徒 第4回(3年1学期調査)データ)



注 縦軸の「あてはまる」とは4件法による回答の「よくあてはまる」と「ややあてはまる」を合計して算出した値。

進学中学校生徒:学校からの働きかけによって、構えがかわる

学校からの過度の働きかけ ↔ 自主性・自律性の涵養

定期考査の難易度を上げると、自信喪失・学習意欲を喪失

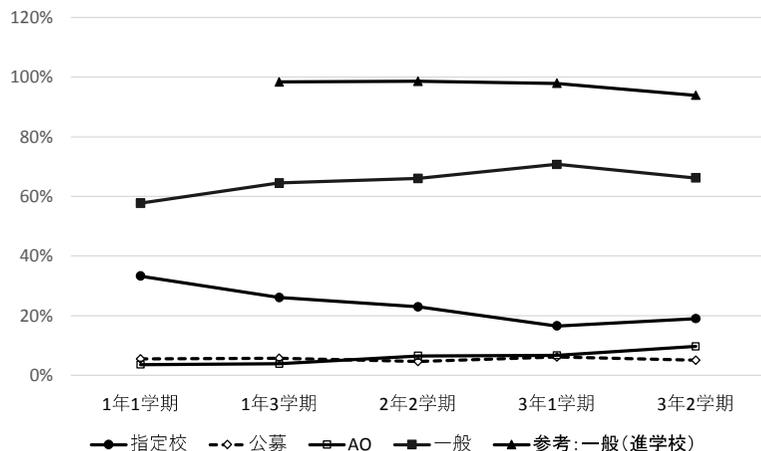
進学中学校の課題: 定期考査の設計・学習指導上、どう位置づけるか

35

Ⅲ. 入試方法志向の変化とそのメカニズム

36

入試方法志向の推移



37

入試方法指向の個人単位の揺らぎ

第2回(1年3学期)－第3回(2年2学期)－第4回(3年1学期)－第5回(3年2学期)

進学校生徒 4時点とも一般入試: 98.7%

進学中堅校生徒 4時点とも 一般入試: 43.9%
 指定校推薦: 7.1%
 公募推薦: 0.1%
 AO入試: 0.1%
 約半数に「揺らぎ」

38

入試方法志向をめぐる動的メカニズムは？



パネルデータ分析

分析対象: 1年3学期－2年2学期－3年1学期－3年2学期

ポイント

進学中堅校生の入試方法志向の変化に何が影響するのか？
 (進学校: 大部分の生徒が一般入試志向)

39

入試方法志向の変化の規定要因(第2回(1年3学期)－第5回(3年2学期)調査時点, 進学中堅校)

入試方法志向	指定校志向	公募志向	AO志向	一般入試志向
採択モデル	固定効果モデル	変量効果モデル	固定効果モデル	固定効果モデル
成績	0.047 **	0.047 ***	0.006	-0.039 *
6教科の学習意欲	0.022	0.040 **	-0.028	0.061 **
女子ダミー	—	0.194 ***	—	—
2年2学期ダミー	-0.111 ***	-0.016	0.036	0.013
3年1学期ダミー	-0.317 ***	-0.034	-0.093 ***	0.070 **
3年2学期ダミー	-0.418 ***	-0.248 ***	-0.182 ***	-0.229 ***
定数	0.612 ***	0.020	0.465 ***	1.514 ***

40

成績の変化と入試方法志向

進学中堅校

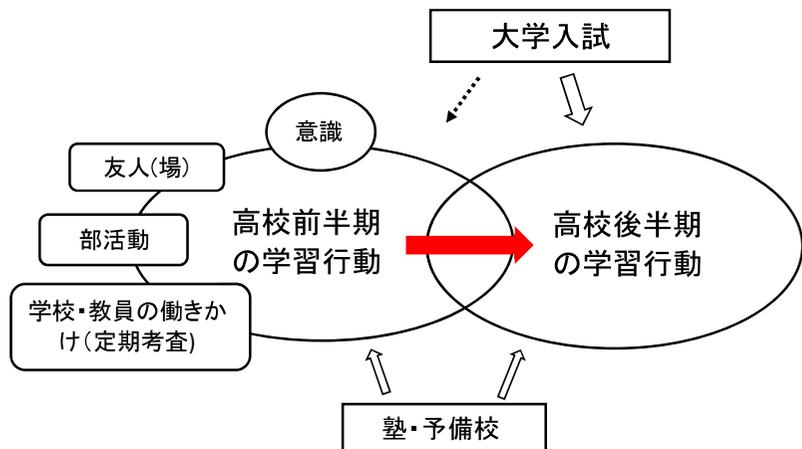
成績の影響

指定校推薦	0.047 **	成績が上がると指定校推薦志向が強まる
公募推薦	0.047 ***	成績が上がると公募推薦志向が強まる
AO入試	0.006	成績の影響は確認できない
一般入試	-0.039 *	成績が下がると一般入試志向が強まる

指定校推薦・公募推薦とAOの違い

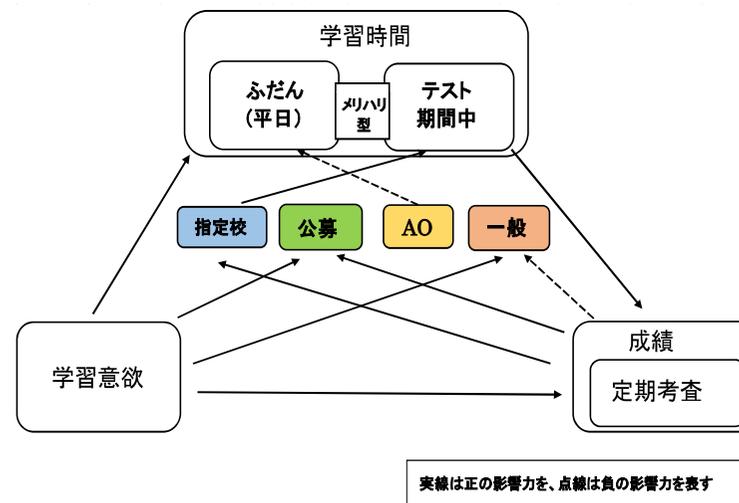
IV. 高校生の学習行動の構造と大学入試改革

学習行動の構造



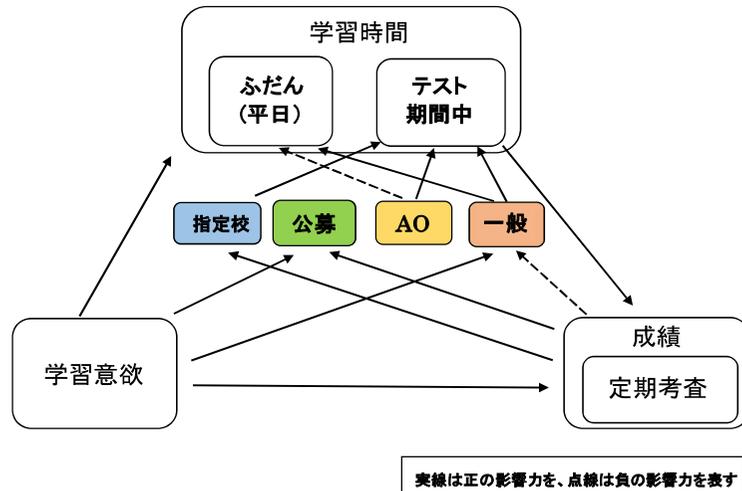
高校前半期に学習習慣をつけることが重要

高校前半期における入試方法志向と学習行動の構造(進学中堅校)



注: 本研究での分析をふまえて作成したおおまかな概念図になる

高校後半期における入試方法志向と 学習行動の構造(進学中堅校)



注:本研究での分析をふまえて作成したおおまかな概念図になる

45

「進学中堅校生(改革論議で問題とされてきた中間層)と大学入試の関係」の主な知見

1. 一般入試が学習時間へのインセンティブになるのは高校後半期になってから。
2. ふだんの学習時間に対して指定校推薦・公募推薦、AO入試は、インセンティブにならない。
3. 指定校推薦は、定期考査時の学習時間のみのインセンティブにしかない。
4. 各入試法志向の強化は、成績の上昇をもたらすとはいえない。
5. 成績の低下は一般入試の、上昇は指定校推薦・公募推薦の志向を強化する。

進学中堅校(およびそれよりも入学難易度の低い高校)に通う生徒に対して大学入試の影響力は限定的

「改革論議で学習時間の減少が問題視された進学中堅校生徒は、大学受験を強く意識するような高校生活を送っていない」

入試改革によって高校生の学習行動
が変わることはあまり期待できない

46

入試改革の視点

- ・高校前半期の学習を望ましい方向に向ける手立てを考える
- ・多様化した入試をどうするか

学習行動の観点

入試実施時期:4月以降に ← 学習の「場」
共に学ぶ友人

推薦・AO入試は5月～8月に (荒井 2008)

選抜単位の大括り化
共通科目を課す (荒井 2007)

47

ポジティブな学習行動形成のための 課題

高校前半期の重要性
学習の「場」の構築

教育政策の転換
教員が自律的・創造的な教育実践を行えるように

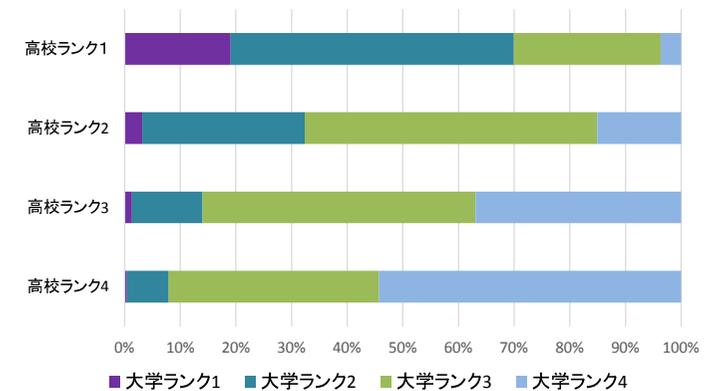
教員の意識・働きかけ方の再考

48

V. 進学中堅校生徒の学習行動の特長と大学教育への示唆

49

高校ランク別の大学入学ランク(2006)

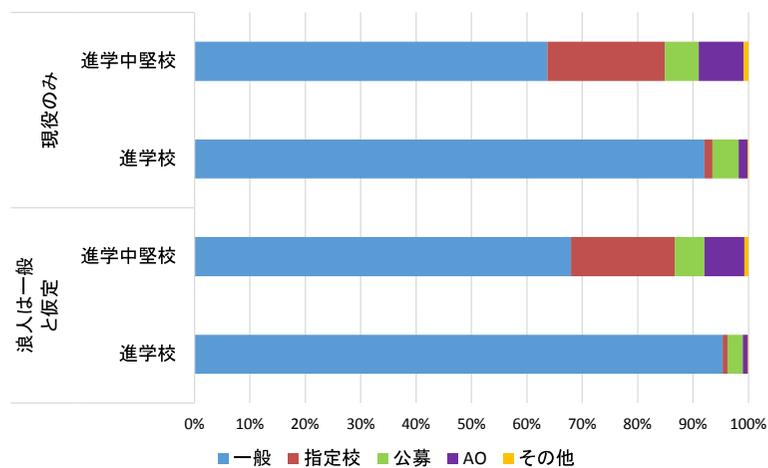


ランク 1 : 偏差値60以上 ランク 2 : 50以上60未満
 ランク 3 : 40以上50未満 ランク 4 : 40未満

データ 山村滋・鈴木規夫・濱中淳子・佐藤智美(2009)
 『学生の学習状況からみる高大接続問題』大学入試センター

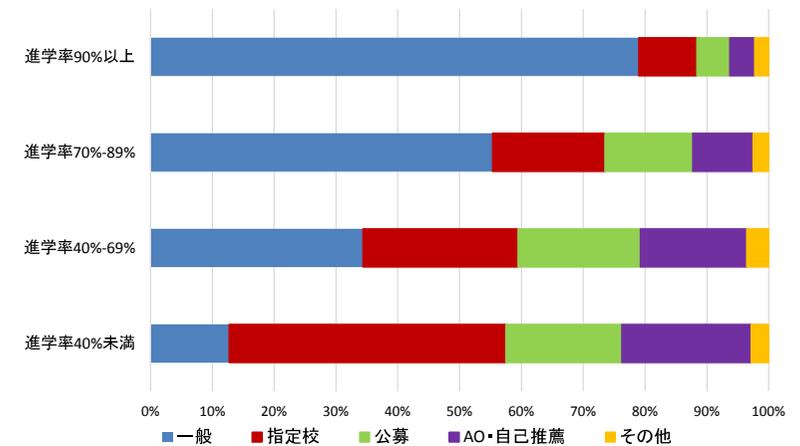
50

対象校の四年制大学入学者の入試方法



51

入学者選抜方法の全国的状況(2018) 大学進学率別



注 浪人は翌年一般入試で進学したと仮定
 データ 山村滋ほか『高等学校の教育課程編成方針等についての調査』
 (2018年秋実施)

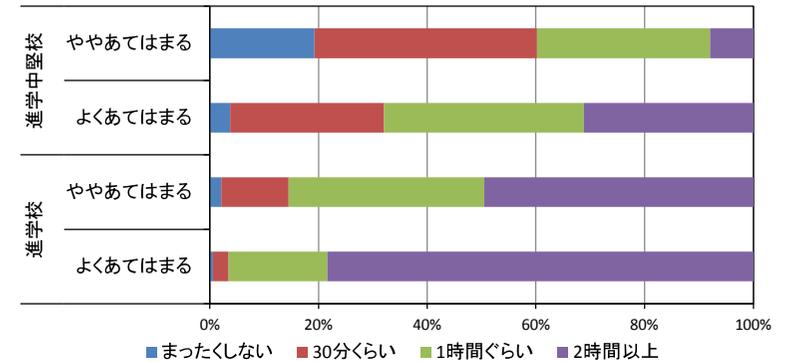
52

進学中堅校生徒の特長

- ①自己効力感の低さ・自信のなさ
- ②一方で、まじめさ
- ③推薦・AOでの進学者:3年2学期以降の学習時間の少なさ

①自己効力感の低さ・自信のなさ

「勉強を頑張っている」と実際の学習時間(1年3学期:ふだん)

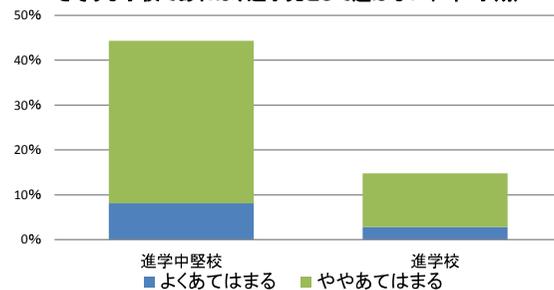


進学中堅校の生徒のうち「勉強を頑張っている」について「よくあてはまる」と自己評価しながらも実際上は30分くらい以下の生徒が1/3以上いる

↓
自己の限界を低く見積もり、可能性を自ら狭めているのではないか

①自己効力感の低さ・自信のなさ

受験に合格できそうでも、進学した後に勉強についていけない学校であれば、進学先として選ばない(1年3学期)

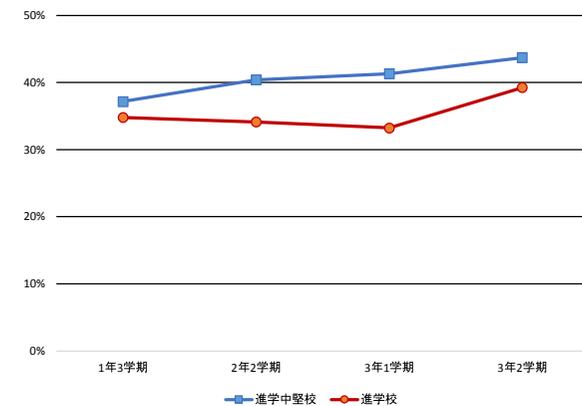


「無理をしなくてもよい大学に」という志向

しかし、潜在的には、勉強についていける能力・学力があるのではないか

②まじめさ

宿題や提出物をいつもきちんとやっている=よくあてはまる



進学中堅校の比率が常に進学校の比率を上回る

③3年2学期以降の学習時間の少なさ

	指定校	公募	AO	一般
学習時間(3年2学期)				
ふだん(平日): 平均値	79.5 分	82.5 分	59.1 分	197.5 分
ふだん(週末): 平均値	109.3 分	124.5 分	78.5 分	218.6 分
テスト期間中: 平均値	208.2 分	207.0 分	181.5 分	214.5 分
ふだん(平日)30分以下の割合(%)	33.3 %	27.5 %	54.9 %	3.5 %

注 指定校・公募・AOは3年2学期の調査時にすでに進学先が決定した者のみが対象。

推薦・AOによる進学先早期決定者は、学習時間が少ない

一般入試志向者との学習時間の差が数ヶ月にわたって蓄積される



「学力不足」の原因のひとつと考えられる

高校、大学、入試制度、それぞれ考えるべき

57

進学中学校生徒の学習行動からの 大学教育への示唆

- * 学習時間の伸び: 1年次で学習習慣をつけることが重要
大学教育でもあてはまるのではないか
(ただし、学習環境の雰囲気、目標の明確さ、など条件が必要と思われる)
参考: 「みんなで一緒に」の雰囲気
「受験に向けて『みんなで頑張ろう』という雰囲気がある」(3年2学期)
「よくあてはまる」 進学中堅校: 18.2%
進学校: 46.0%
進路希望の明確さ(進学したい学校): 学習時間増の要因
勉強を頑張っている友人、友人とともに勉強する「場」

- * 自己効力感の低さ・自信のなさ
(ただし潜在的には能力はある)
一方で、まじめ
→ 自信を持たせる: 到達可能な短期的目標の設定
(ある高校の実践)

大学進学=学習行動リセットのチャンス
進学中堅校生(1年1学期)「勉強を頑張る」: 強い意欲
「よくあてはまる」=52.0%、「ややあてはまる」=40.7%

58

* 大学入試改革・高校教育改革・大学教育改革
エビデンスを重視しながらもその限界に自覚的であるべき

統計的データで掬い上げることが難しい、実践者の経験に基づく知恵・見識も重視する

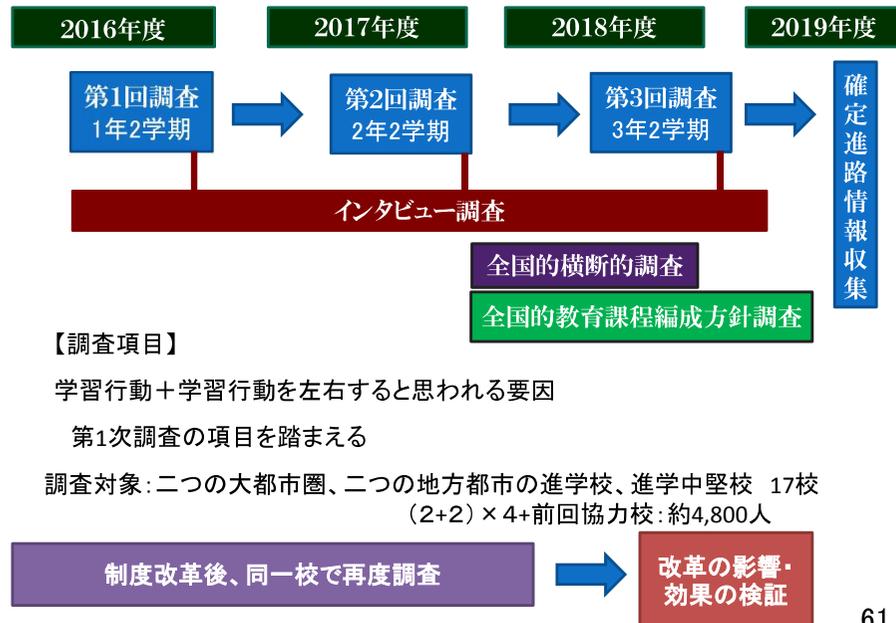
- * 第2次高校生学習行動調査
地理的制約(首都圏)による限界
→ パネル調査: 関西、地方をも対象に
全国的横断的調査
対象: 生徒
教務主任(教育課程の編成方針)

おわりに

59

60

第2次高校生学習行動調査 パネル調査+大規模横断的調査



61

ご清聴ありがとうございました



本報告のもとになった拙著(共著)
山村滋・濱中淳子・立脇陽介(2019)
『大学入試改革は高校生の学習行動を変えるか
—首都圏10校パネル調査による実証分析—』
ミネルヴァ書房

ご意見やご質問等ございましたら
yamamura@rd.dnc.ac.jp
までお願いします

62

引用文献

荒井克弘, 2007, 「高校と大学のアーティキュレーション——受験シフトからの脱却」『IDE 現代の高等教育』489: 9-13.

荒井克弘, 2008, 「大学教育制度と秋季入学」, 平成20年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会(第3回)テーマ指定討論会「秋季(9月)入学と秋季入学者向け入試について」報告資料, 2008年5月27日。

ベネッセ教育研究開発センター, 2007, 『第4回学習基本調査報告書』ベネッセ教育研究開発センター。

中央教育審議会, 2014, 『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について——すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために(答申)』(2014年12月22日)。

中央教育審議会 高大接続特別部会議事要旨・議事録・配布資料
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo12/giji_list/index.htm)。

倉元直樹, 2017, 「大学入試制度改革の論理——大学入試センター試験はなぜ廃止の危機に至ったのか」東北大学高度教養教育・学生支援機構編『大学入試における共通試験』東北大学出版会, 47-82。

乾彰夫・新田照夫, 1983, 「共通一次試験は高校にどんな影響を及ぼしたか——入試改革の影響調査から」日本教育学会入試制度研究委員会編『大学入試制度の教育学的研究』東京大学出版会, 313-323。

63

別紙 変数の作成方法

表 学習時間のパネルデータ分析に用いた変数の作成方法

変数	作成方法
[従属変数]	
学習時間	まったくしない=0, 30分ぐらい=0.5, 1時間ぐらい=1, 2時間ぐらい=2, 3時間ぐらい=3, 4時間以上=4
[独立変数]	
第2回(1年3学期)調査時点の学習時間	1年3学期の学習時間(ふだん平日)
通塾日数	塾・予備校に通っている1週間あたりの日数
女子ダミー	女子=1, 男子=0
部活動日数	週当たりの部活動日数
進学したい学校(明確度)	進学したい学校は決まっていない=1, おおまかには決まっている=2, 決まっている=3
進学したい分野(明確度)	進学したい分野は決まっていない=1, おおまかには決まっている=2, 決まっている=3
就きたい仕事(明確度)	将来就きたい仕事を選択肢から選んでもらい、その選択に対して尋ねた回答を利用。他の仕事でもかまわない=1, とりあえず就きたい=2, できれば就きたい=3, ぜいじょ就きたい=4
勉強に熱心な学内友人	学内の友人は勉強を頑張っている=1, 頑張っていない・わからない=0
勉強に熱心な学外友人	勉強を頑張っている学外の友人との付き合いが多い=1, 付き合いはない=0
学習の「場」(ふだん)	友人や部活の仲間と、塾や予備校以外で一緒に勉強することがある(ふだん)=1, ない=0
学習の「場」(テスト期間中)	友人や部活の仲間と、塾や予備校以外で一緒に勉強することがある(テスト前-1週間/テスト期間中)=1, ない=0
先生の指導(勉強時間を多く)	学校の先生から学習時間を多くするように言われる
身の丈大学志向(第2回(1年3学期)調査)	ちょうどいいぐらいの大学に進学したい=4, どちらかといえばちょうどいいぐらいの大学に進学したい=3, どちらかといえば少しでも上の大学をめざしたい=2, 少しでも上の大学をめざしたい=1
指定校推薦志向	指定校推薦での受験を、考えていない=0, 考えている=1, もっとも真剣に考えている=2
公募推薦志向	公募推薦での受験を、考えていない=0, 考えている=1, もっとも真剣に考えている=2
AO入試志向	AO入試での受験を、考えていない=0, 考えている=1, もっとも真剣に考えている=2
一般入試志向	一般入試での受験を、考えていない=0, 考えている=1, もっとも真剣に考えている=2
2年2学期ダミー	1年3学期を基準
3年1学期ダミー	2年2学期を基準
3年2学期ダミー	3年1学期を基準

表 成績のパネルデータ分析に用いた変数の作成方法

変数	作成方法
[従属変数]	
成績	「現在のあなたの成績は、学年で全般的にどれくらいですか」を5段階尺度(1~5)で尋ねたもの
[独立変数]	
学習時間	まったくしない=0, 30分ぐらい=0.5, 1時間ぐらい=1, 2時間ぐらい=2, 3時間ぐらい=3, 4時間以上=4
通塾日数	塾・予備校に通っている1週間当たりの日数
女子ダミー	女子=1, 男子=0
6教科の学習意欲	国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語に関する学習意欲を4段階尺度で尋ねた回答を1~4で得点化したものの平均値。非履修の教科がある場合は履修している教科のみで平均値を算出
身の丈大学志向(第2回(1年3学期)調査)	ちょうどいいぐらいの大学に進学したい=4, どちらかといえばちょうどいいぐらいの大学に進学したい=3, どちらかといえば少しでも上の大学をめざしたい=2, 少しでも上の大学をめざしたい=1
指定校推薦志向	指定校推薦での受験を、考えていない=0, 考えている=1, もっとも真剣に考えている=2
公募推薦志向	公募推薦での受験を、考えていない=0, 考えている=1, もっとも真剣に考えている=2
AO入試志向	AO入試での受験を、考えていない=0, 考えている=1, もっとも真剣に考えている=2
一般入試志向	一般入試での受験を、考えていない=0, 考えている=1, もっとも真剣に考えている=2
2年2学期ダミー	1年3学期を基準
3年1学期ダミー	1年3学期を基準
3年2学期ダミー	1年3学期を基準

表 入試方法志向のパネルデータ分析に用いた変数の作成方法

変数	作成方法
[従属変数]	
指定校推薦志向	指定校推薦での受験を、考えていない=0, 考えている=1, もっとも真剣に考えている=2
公募推薦志向	公募推薦での受験を、考えていない=0, 考えている=1, もっとも真剣に考えている=2
AO入試志向	AO入試での受験を、考えていない=0, 考えている=1, もっとも真剣に考えている=2
一般入試志向	一般入試での受験を、考えていない=0, 考えている=1, もっとも真剣に考えている=2
[独立変数]	
成績	「現在のあなたの成績は、学年で全般的にどれくらいですか」を5段階尺度(1~5)で尋ねたもの
6教科の学習意欲	国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語に関する学習意欲を4段階尺度で尋ねた回答を1~4で得点化したものの平均値。非履修の教科がある場合は履修している教科のみで平均値を算出
女子ダミー	女子=1, 男子=0
2年2学期ダミー	1年3学期を基準
3年1学期ダミー	1年3学期を基準
3年2学期ダミー	1年3学期を基準

別紙 パネルデータ分析の結果

表 ふだん(平日)の学習時間の増減の規定要因(進学中堅校)

採択モデル	第2回 - 第3回	第3回 - 第4回	第4回 - 第5回
	1年3学期-2年2学期	2年2学期-3年1学期	3年1学期-3年2学期
第2回(1年3学期) 調査時点の学習時間	—	0.426 ***	—
通塾日数(週当たり)	0.219 ***	0.238 ***	0.275 ***
女子ダミー	0.060 *	0.094 **	—
部活動日数(週当たり)	-0.025 ***	-0.045 ***	—
進学したい学校(明確度)	0.079 ***	0.135 ***	0.163 *
進学したい分野(明確度)	0.018	0.030	-0.097
就きたい仕事(明確度)	0.014	-0.018	0.037
勉強に熱心な学内友人	0.047 *	0.065 *	0.085
勉強に熱心な学外友人	0.063 **	0.063 *	0.053
学習の「場」(ふだん)	—	0.259 ***	0.188 *
先生の指導(勉強時間を多く)	0.010	0.025	-0.016
身の丈大学志向(第2回(1年3学期)調査)	-0.063 ***	-0.037 *	—
指定校推薦志向	0.020	0.051	-0.045
公募推薦志向	-0.003	0.000	-0.012
A〇入試志向	-0.043 *	-0.099 ***	0.039
一般入試志向	0.016	0.124 **	0.315 ***
2年2学期ダミー(基準:1年3学期)	-0.085 ***	—	—
3年1学期ダミー(基準:2年2学期)	—	0.592 ***	—
3年2学期ダミー(基準:3年1学期)	—	—	0.966 ***
定数	0.429 ***	-0.197	0.346
F検定	F(13, 781)=112.98 Prob>F=0.000		
ワルドカイニ乗検定	chi2(15)=597.93 Prob>chi2=0.0000	chi2(17)=3606.54 Prob>chi2=0.0000	
決定係数(within)	0.124	0.638	0.653
決定係数(between)	0.225	0.541	0.438
決定係数(overall)	0.227	0.577	0.488
sigma_u	0.397	0.345	0.881
sigma_e	0.381	0.662	0.783
rho	0.521	0.213	0.558
corr(u_1, Xb)	0と仮定	0と仮定	-0.136
観測数	2478	2575	2314
個体数	1573	1581	1520

注: *** 0.1%水準で有意 ** 1%水準で有意 * 5%水準で有意

1年3学期の学習の「場」のデータは収集していないので、投入していない。

3年2学期の部活動日数のデータは収集していないので、投入していない。

表 ふだん(平日)の学習時間の増減の規定要因(進学校)

採択モデル	第2回 - 第3回	第3回 - 第4回	第4回 - 第5回
	1年3学期-2年2学期	2年2学期-3年1学期	3年1学期-3年2学期
第2回(1年3学期) 調査時点の学習時間	—	0.463 ***	0.344 ***
通塾日数(週当たり)	0.133 ***	0.151 ***	0.137 ***
女子ダミー	0.056	0.085	0.199 *
部活動日数(週当たり)	-0.052 ***	-0.086 ***	—
進学したい学校(明確度)	0.156 ***	0.128 **	0.213 ***
進学したい分野(明確度)	0.084	0.130 *	0.184 **
就きたい仕事(明確度)	-0.136	0.036	0.000
勉強に熱心な学内友人	0.170 **	0.090	0.179
勉強に熱心な学外友人	-0.007	-0.087	-0.034
学習の「場」(ふだん)	—	0.282 ***	0.297 ***
先生の指導(勉強時間を多く)	0.008	-0.018	0.088 *
身の丈大学志向(第2回(1年3学期)調査)	-0.184 ***	-0.032	-0.050
指定校推薦志向	0.111	0.281 **	0.261
公募推薦志向	0.026	0.127	0.057
A〇入試志向	-0.119	-0.260 **	-0.108
一般入試志向	0.099	0.163	0.047
2年2学期ダミー(基準:1年3学期)	-0.080	—	—
3年1学期ダミー(基準:2年2学期)	—	0.393 ***	—
3年2学期ダミー(基準:3年1学期)	—	—	1.337 ***
定数	0.941 **	-0.054	-0.270
ワルドカイニ乗検定	chi2(15)=142.67 Prob>chi2=0.000	chi2(17)=1023.47 Prob>chi2=0.000	chi2(16)=1273.53 Prob>chi2=0.000
決定係数(within)	0.092	0.536	0.675
決定係数(between)	0.146	0.475	0.390
決定係数(overall)	0.134	0.501	0.515
sigma_u	0.574	0.454	0.468
sigma_e	0.550	0.592	0.757
rho	0.521	0.370	0.276
corr(u_1, Xb)	0と仮定	0と仮定	0と仮定
観測数	1020	1020	1050
個体数	623	608	615

注: *** 0.1%水準で有意 ** 1%水準で有意 * 5%水準で有意

1年3学期の学習の「場」のデータは収集していないので、投入していない。

3年2学期の部活動日数のデータは収集していないので、投入していない。

表 テスト期間中の学習時間の増減の規定要因(進学中堅校)

採択モデル	第2回-第3回	第3回-第4回	第4回-第5回
	1年3学期-2年2学期	2年2学期-3年1学期	3年1学期-3年2学期
	変量効果モデル	固定効果モデル	固定効果モデル
第2回(1年3学期)調査時点の学習時間	—	—	—
通塾日数(週当たり)	0.058 **	0.019	0.052 ***
女子ダミー	0.411 ***	—	—
部活動日数(週当たり)	0.029 **	-0.014	—
進学したい学校(明確度)	0.041	0.027	-0.059
進学したい分野(明確度)	-0.004	0.028	0.010
就きたい仕事(明確度)	0.103 ***	0.020	0.028
勉強に熱心な学内友人	0.026	-0.013	0.053
勉強に熱心な学外友人	0.028	-0.005	0.038
学習の「場」(テスト期間中)	—	-0.030	0.054
先生の指導(勉強時間を多く)	0.046	0.061	-0.032
身の丈大学志向(第2回(1年3学期)調査)	-0.098 ***	—	—
指定校推薦志向	0.150 ***	0.049	0.253 ***
公募推薦志向	0.040	-0.003	0.025
AO入試志向	-0.062	0.016	0.174 **
一般入試志向	-0.068	0.019	0.302 ***
2年2学期ダミー(基準:1年3学期)	0.558 ***	—	—
3年1学期ダミー(基準:2年2学期)	—	0.113 *	—
3年2学期ダミー(基準:3年1学期)	—	—	0.284 ***
定数	1.956 ***	2.803 ***	2.617 ***
F検定	—	F(14,982)=4.17	(F13,778)=8.73
	—	Prob>F=0.000	Prob>F=0.000
ワルドカイニ乗検定	chi2(15)=564.12	—	—
	Prob>chi2=0.0000	—	—
決定係数(within)	0.250	0.056	0.127
決定係数(between)	0.137	0.055	0.031
決定係数(overall)	0.162	0.046	0.051
sigma_u	0.659	0.887	0.831
sigma_e	0.728	0.635	0.600
rho	0.450	0.661	0.657
corr(u_1, Xb)	0と仮定	0.089	-0.032
観測数	2479	2579	2314
個体数	1574	1583	1523

注:***0.1%水準で有意 **1%水準で有意 *5%水準で有意

1年3学期の学習の「場」のデータは収集していないので、投入していない。

3年2学期の部活動日数のデータは収集していないので、投入していない。

表 テスト期間中の学習時間の増減の規定要因(進学校)

採択モデル	第2回-第3回	第3回-第4回	第4回-第5回
	1年3学期-2年2学期	2年2学期-3年1学期	3年1学期-3年2学期
	変量効果モデル	変量効果モデル	変量効果モデル
第2回(1年3学期)調査時点の学習時間	—	0.233 ***	0.127 ***
通塾日数(週当たり)	0.007	0.053 **	0.047 ***
女子ダミー	0.329 ***	0.341 ***	0.247 **
部活動日数(週当たり)	0.010	0.002	—
進学したい学校(明確度)	0.128 **	0.069	0.052
進学したい分野(明確度)	0.027	0.042	0.114 *
就きたい仕事(明確度)	0.008	0.047	0.063 *
勉強に熱心な学内友人	0.242 **	0.203 **	0.243 **
勉強に熱心な学外友人	0.108	-0.030	-0.016
学習の「場」(テスト期間中)	—	0.285 ***	0.180 ***
先生の指導(勉強時間を多く)	0.147 ***	0.100 **	0.135 ***
身の丈大学志向(第2回(1年3学期)調査)	-0.207 ***	-0.118 **	-0.100 **
指定校推薦志向	0.034	-0.060	0.001
公募推薦志向	-0.034	-0.067	-0.121
AO入試志向	0.005	-0.020	-0.052
一般入試志向	0.143	0.152	0.175
2年2学期ダミー(基準:1年3学期)	0.364 ***	—	—
3年1学期ダミー(基準:2年2学期)	—	0.065	—
3年2学期ダミー(基準:3年1学期)	—	—	0.231 ***
定数	1.814 ***	1.782 ***	1.641 ***
ワルドカイニ乗検定	chi2(15)=183.28	chi2(17)=170.11	chi2(16)=199.65
	Prob>chi2=0.000	Prob>chi2=0.000	Prob>chi2=0.000
決定係数(within)	0.184	0.051	0.119
決定係数(between)	0.142	0.199	0.200
決定係数(overall)	0.143	0.179	0.179
sigma_u	0.650	0.631	0.579
sigma_e	0.714	0.602	0.550
rho	0.454	0.523	0.529
corr(u_1, Xb)	0と仮定	0と仮定	0と仮定
観測数	1017	1020	1050
個体数	622	609	615

注:***0.1%水準で有意 **1%水準で有意 *5%水準で有意

1年3学期の学習の「場」のデータは収集していないので、投入していない。

3年2学期の部活動日数のデータは収集していないので、投入していない。

表 成績の変化の規定要因(第2回(1年3学期)－第5回(3年2学期)調査時点, 学校タイプ別)

	進学中堅校	進学校
	第2回-第5回	第2回-第5回
	1年3学期-3年2学期	1年3学期-3年2学期
採択モデル	固定効果モデル	固定効果モデル
ふだんの学習時間	-0.001	0.046 *
テスト期間中の学習時間	0.085 ***	0.082 ***
通塾日数(週当たり)	-0.003	0.012
女子ダミー	—	—
6教科の学習意欲	0.192 ***	0.208 **
身の丈大学志向(第2回(1年3学期)調査)	—	—
指定校推薦志向	0.031	0.031
公募推薦志向	0.028	-0.031
AO入試志向	-0.005	0.014
一般入試志向	-0.032	-0.014
2年2学期ダミー	-0.047	0.164 ***
3年1学期ダミー	0.007	0.081 *
3年2学期ダミー	0.007	0.057
定数	2.106 **	1.768 ***
F検定	F(11,3507)=16.25	F(11,1384)=15.84
	Prob>F=0.000	Prob>F=0.000
決定係数(within)	0.049	0.112
決定係数(between)	0.239	0.199
決定係数(overall)	0.165	0.160
sigma_u	0.824	0.837
sigma_e	0.536	0.500
rho	0.703	0.737
corr(u_1, Xb)	0.286	0.217
観測数	5275	2056
個体数	1757	661

注: *** 0.1%水準で有意 ** 1%水準で有意 * 5%水準で有意

表 入試方法志向の変化の規定要因(第2回(1年3学期)－第5回(3年2学期)調査時点, 進学中堅校)

入試方法志向	指定校志向	公募志向	AO志向	一般入試志向
採択モデル	固定効果モデル	変量効果モデル	固定効果モデル	固定効果モデル
成績	0.047 **	0.047 ***	0.006	-0.039 *
6教科の学習意欲	0.022	0.040 **	-0.028	0.061 **
女子ダミー	—	0.194 ***	—	—
2年2学期ダミー	-0.111 ***	-0.016	0.036	0.013
3年1学期ダミー	-0.317 ***	-0.034	-0.093 ***	0.070 **
3年2学期ダミー	-0.418 ***	-0.248 ***	-0.182 ***	-0.229 ***
定数	0.612 ***	0.020	0.465 ***	1.514 ***
F検定	F(5,3765)=84.42	—	F(5,3731)=30.56	F(5,3812)=55.95
	Prob>F=0.000	—	Prob>F=0.000	Prob>F=0.000
ワルドカイニ乗検定	—	chi2(6)=404.52	—	—
	—	Prob>chi2=0.000	—	—
決定係数(within)	0.101	0.054	0.039	0.069
決定係数(between)	0.136	0.091	0.014	0.024
決定係数(overall)	0.087	0.075	0.024	0.040
sigma_u	0.644	0.265	0.461	0.570
sigma_e	0.552	0.475	0.496	0.511
rho	0.577	0.237	0.463	0.554
corr(u_1, Xb)	0.114	0と仮定	0.010	0.033
観測数	5641	5582	5604	5690
個体数	1871	1865	1868	1873

注: *** 0.1%水準で有意 ** 1%水準で有意 * 5%水準で有意